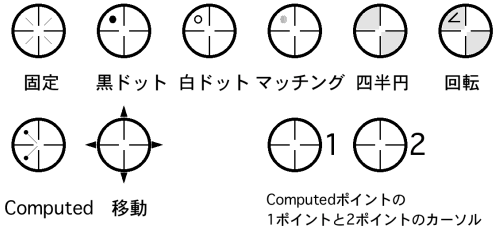


# Image ExpressとViewPointの比較

(株)IDTジャパン  
2011.05.20

項目		Image Express	ViewPoint	備考
画像を任意の位置に置く		X	○	ViewPointでは、画像を任意の位置に置くことが可能。
画像を任意の倍率にする		X	○	ViewPointでは、メイン画像を任意の倍率で表示することが可能。
ズームウィンドウ		○	◎	ViewPointでは、任意の位置にズームウィンドウを任意の大きさで設定することが可能。
ロックズーム機能		○	◎	ターゲットマークをズームウィンドウでロックして表示させる機能。トラッキング結果の確認に便利。
ズームアップ・ダウン		キーボードのカーソル↑ ↓キー	キーボード↑、マウスホイール、 右クリックプロパティウィンドウ	ViewPointでは、ズーム機能にバリエーションを増やした。
操作アイコンを任意の位置にセット		X	○	Image Expressの操作アイコンは固定。ViewPointでは任意の位置に操作アイコンを設定することができる。
ソフトウェアの管理		プロテクトキー (dongle)	←	コンピュータ自体の機械登録よりもユーザの汎用性が高い。複数のコンピュータで使用することが可能。
右クリックファンクション (Windowsでの一般的な操作機能)		X	○	Windowsでよく使われる、右クリック操作で機能の詳細設定メニューを開くことが可能。Image Expressでの詳細設定は、メニューのオプションアイコンから設定。
ターゲット 読み取り	直接入力	 ○	 ○	直接入力は、「Ctl」もしくは、「Shift」ボタンを押して、ターゲットポイントを入力。これは、いずれのターゲットマークにても可能。つまり、「Ctl」もしくは、「Shift」ボタンを押すと、ターゲットトラッキングの属性から解除されるので、任意にポイントの指定が可能となる。
	白点	 ○	 ○	
	黒点	 ○	 ○	
	四半円形	 ○	 ○	
	特徴点	 ○	 ○	
	計算点	 ○	 ○	
	回転	 ○	 ○	
プロット	グラフ画面の大きさ	一定	可変	自由にレイアウト可能。
	グラフの表示管理	ソフトウェア管理	Windows操作に準拠	自由に消去可能。
	画像とグラフの同期表示	○	○	
Image Expressの画像データの読み出し		○	○	ViewPointでは、Image Expressで解析したデータを取り込むことが可能。
解析データの保存		専用TIFFファイルにて同時保存。	画像ファイルとは別のファイルで保存。	aviファイルなどの形式で画像を保存し、データファイルは別に保存。再生時ドッキング。
JPEG画像を読み込む		○	○	マイナスフレーム読み込み可能。
BMP画像を読み込む		X	○	↑
TIFF画像を読み込む		○	○	↑

項目	Image Express	ViewPoint	備考
avi画像を読み込む	○	○	2GB以上のファイル容量は読み取り不可。また、圧縮(CODEC)についても、注意が必要。
MPEG画像を読み込む	X	可能 但し、解析結果に難あり	MPEGは、ファイル容量が極端に小さいので、このファイルでの解析が望まれている。
ファイルの読み出し	ファイルを指定して読み出す。	メニューで過去開いたファイルの履歴があるので、これでファイルを読み出すことが可能。	ファイルの読み出しが迅速
ファイルの読み出し時のデータファイル	プロットデータはその都度、設定	前回終了して時点での画面レイアウトを記憶しているため、前回と同じレイアウトで表示。	ファイルの読み出し、表示が迅速。
カーソルアイコン	ターゲットマーク によって対応	 <p>固定 黒ドット 白ドット マッチング 半円 回転 Computed 移動 Computedポイントの 1ポイントと2ポイントのカーソル</p>	
トラッキングデータの修正	「Edit」モードでターゲットの属性を変更してポイントを修正する。多くの場合「直接入力」が多い。	「修正」ボタンを押して、「Ctl」もしくは、「Shift」ボタンを押してターゲットポイントを修正。	簡単にトラッキングポイントを修正できる。
レッドレックカメラ画像の自動認識	対応。 ただし、HG-100Kシリーズまで。	対応 (オプションで他のカメラにも対応)	撮影日時、撮影速度、露出時間データが自動的に取り込める。
トラッキングデータ保存	一連TIFFとして保存	別ファイルで保存 画像は手を加えずオリジナル画像として保存可能。	データファイル(.icf)として関連付けて保存。
ターゲットデータを出力	csvファイルで出力	←	エクセルでデータを読み出すことが可能。
ビューア	無料配布	←	計測結果を自由に閲覧することが可能。別の目的にも利用可能。
フィルタ処理	相加平均のみ	J211 CFCデジタルフィルタ	自動車安全実験でスタンダードになっているもの。
センサーデータ(tab切りテキスト、DiaDem)読み込み	可能	可能	
センサーデータ(エクセルデータ直接)読み込み	不可能	可能	従来の、タブ切りテキストファイルフォーマットに代え、エクセルデータをそのまま読み込む方式。
プリンタ出力	希望するアイテムをドラッグ。任意の配置は不可能。	希望するアイテムをドラッグして印刷。任意の配置可能。	ViewPointでは、よりフレキシブルにプリントレイアウトを設定することが可能。コメント(テキスト)、ロゴの挿入が可能。
エアバッグ解析	オプションで○	オプションで○	
3D解析	オプションで○	開発中	
レンズ補正	オプションで○	オプションで○	

項目	Image Express	ViewPoint	備考
UNDO/REDO機能	X	○	すべての操作の呼び戻しが可能。 間違ってもトラッキングポイントを消してもUndoで読み戻し可能。
解析結果の 動画ファイル保存	X	○	解析結果のプロット画像と画像を AVIファイルに保存することが可能。
複数画像の同期再生	○	○	複数画像ファイルを撮影速度に対応させて同期再生可能。
解析ファイルの テンプレート機能	X	○	毎回行う同じ設定条件(撮影速度、倍率補正、ターゲットポイント数)をファイル化してテンプレートとし、そのテンプレートを読み出す機能。解析作業の効率化に役立つ。
フレーム間の 深度倍率補正	X	○	ダミーが撮影時に撮影方向前後に揺れて、ダミー上のターゲットの撮影倍率が増減することを防ぐ機能
ターゲットマークの 文字設定	数字だけ	日本語対応	ターゲットポイントは従来数字だけの対応であったが、日本語入力にも対応。